ISSN 1348-6977
第 6 号

福山大学図書館報

Library Announcement
Fukuyama University

第 6 号
2008.9

＜目次＞

レスピーギ、交響詩「ローマの松」－音と活字－　片岡俊郎・・・・・・ 1
ＳＦを読んでみませんか－私のＳＦ事始め－　地主弘幸・・・・・・ 2
本の中には何がある？　三川　敦・・・・・・ 3
教員著作寄贈図書　・・・・・・ 4
図書館体験　・・・・・・ 5
まず CiNii からはじめよう電子ジャーナルと文献・情報探索　井上達雄・・・・・・ 6
生命栄養科学科の雑誌・図書の紹介　岩本博行・・・・・・ 7
「本」との出会い　宇野勝次・・・・・・ 8

レスピーギ、交響詩「ローマの松」－音と活字－

福山大学附属図書館長
経済学部経済学科教授　片岡俊郎

イタリアの作曲家、オットリーノ・レスピーギ（1879～1936 年）には、交響詩「ローマの噴水」（1916 年）、「ローマの松」（1924 年）、「ローマの祭り」（1928 年）の「ローマ 3 部作」がある。とりわけ「ローマの松」は、有名である。

「ローマの松」は、「ボルゲーゼ荘の松」、「カタコンベ付近の松」、「ジャニコロの松」、「アッピア街道の松」の 4 曲から構成されている。

第 45 回レコード・アカデミー賞を管弦楽曲部門で受賞した、アントニオ・パッパーノ指揮、ローマ・サンタチェチーリア国立アカデミー管弦楽団「レスピーギ、ローマ 3 部作」での佐伯茂樹氏の解説によりながら「ローマの松」を紹介すれば、次の通りである。

第 1 曲「ボルゲーゼ荘の松」では、有名な公園ボルゲーゼ荘の松の下で遊ぶ子供たちが描かれ、第 2 曲「カタコンベ付近の松」では、カタコンベ（地下の墓場）の入口に立つ松が、第 3 曲「ジャニコロの松」では、ローマの街並が一望できるジャニコロの丘の松、第 4 曲「アッピア街道の松」では、古代ローマで、ローマと各地を結びつける主要道であったアッピア街道の松が描かれている。

NHK-FM 放送で実況中継された「第 1630 回 N 響定期演奏会（2008 年 10 月 29 日）」でジャナンドレア・ノセダ指揮 NHK 交響楽団が演奏したラフマニノフ作曲、レスピーギ編曲「5 つの練習曲、音の絵」は、「海とかもめ」、「市場の風景」、「葬送行進曲」、「赤ずきんと狼」、「行進曲」から構成されている。

レスピーギは、「ローマの松」で真昼のローマ、夕闇のローマ、真夜中のローマ、夜明けのローマを、子供たち、死者たち、寝静まった街並み、軍隊の行進と結びつけて、松を描いている。一方、ラフマニノフ「音の絵」の編曲では、レスピーギは、静かな海上で自由に飛び交うかもめ、市場の喧噪で掻き消されるかもめの鳴き声、かもめの死、そして、狼に追われる赤ずきんちゃん、狼から逃げおおせ、自分のリズムを取り戻した赤ずきんちゃんを描いていると言える。かもめと人間赤ずきんちゃんを対比することによって、レスピーギの本来の世界が、ラフマニノフに追いかけられ、自分の世界を見失いかけるものの、編曲を完成し、自由を取り戻し、安堵したレスピーギ自身を描いているとも言える。

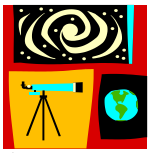
音の世界を活字の世界に置き変えることによって、一つの世界が見えてきたような気がする。

SF を読んでみませんか－私の SF 事始め－

人間文化学部環境情報学科　地主弘幸

SF という単語を試しに広辞苑第 6 版で調べると、「(Science Fiction の略)科学の発想をもとにし、未来社会の人間を描く空想的小説。ヴェルヌの『海底二万里』や H.G.ウェルズの『タイムマシン』『宇宙戦争』などに始まる。空想科学小説。科学小説。」と説明されています。しかし、今となっては少々古くさい定義のように思えます。1960 年代に英国で始まった SF のニュー・ウェーブ運動以降、「SF は Science Fiction(サイエンス・フィクション)の略ではなく、Speculative Fiction(スペキュレイティブ・フィクション，思索的小説)の略だ」という主張が一般化しています。Science Fantasy という言葉もあり、広義ではファンタジーも SF に含めて考える場合があります。思い出したようにぽつりぽつりとしか SF を読まない自称ものぐさ SF ファンが大きなことは言えませんが、多様化した現在の SF を一つの定義でくくろうとすること自体、もはやナンセンスかもしれません。

私が SF というジャンルに興味を持ち始めたのは、中学生の頃です。ある雑誌で紹介されていた E・R・バローズ(ターザン・シリーズの原作者)著の SF 小説『火星のプリンセス』(創元 SF 文庫)を手に取ったのがきっかけです。現実の火星がそんな空想を許すような世界ではないことは既に認識していましたが、あまりの面白さに一気に読み切ってしまいました。この小説が世に出たのは 1912 年のことであり、今となってはいささか古風な部分もありますが、現在でも十二分に楽しめる作品であることは保証します。スペース・オペラ－『銀河英雄伝説』(創元 SF 文庫)を思い浮かべればよい－として分類されることが多いこの作品ですが、ヒロイック・ファンタジー (異世界の英雄冒険譚)として読んでみてください。ヒロイック・ファンタジーといえば、その原点ともいえるロバート・E・ハワードのコナン・シリーズが『新訂版コナン全集』(全 6 巻)として創元社推理文庫より刊行中、こちらもお勧めです。



SF という観点から見ると、NHK という放送局はあなどれません。1972 年に NHK 少年ドラマシリーズ第一作として筒井康隆原作の『時をかける少女』(角川文庫)をドラマ化した『タイムトラベラー』が好評をはくし、以降、光瀬龍、星新一、眉村卓、小松左京といった SF 作家の作品をドラマ化しています。また、1978 年にアレグサンダー・ケイ原作の『未来少年コナン』、次いでスペース・オペラの古典ともいえるエドモンド・ハミルトン原作の『キャプテン・フューチャー』(創元 SF 文庫)をアニメ化して以降、現在に至るまで様々な SF・ファンタジーの映像化作品を世に送り出しています。最近の作品では、『精霊の守り人』が特に気に入っています。原作は同名のファンタジー小説、上橋菜穂子著、守人シリーズの第 1 作『精霊の守り人』(偕成社単行本、新潮文庫)です。物語の主人公は、凄腕の女用心棒バルサと新ヨゴ皇国の第二皇子チャグム。チャグムは、ある理由から実の父である帝に疎まれ、刺客を差し向けられるはめに陥ります。ひょんなことから二人は出会い、バルサは幼いチャグムを命がけで守りながら、逃避行を始めることになり・・・。原作者は文化人類学者でもあり、緻密な世界観に基づく物語作りは見事です。まだ読んでいない方は、ぜひ原作を手に取ってみてください。見るだけで済ませるにはもったいない作品です。

SF の世界は多彩です。紙面の都合上、あまり多くの作品に触れることはできませんでしたが、手頃な SF 入門書・読書案内として、早川書房編集部編『新・SF ハンドブック』(ハヤカワ文庫)と伊藤典夫著『SF ベスト 201』(新書館)の 2 冊を上げておきたいと思います。詩情豊かでファンタスティックな作品から科学好きのあなたも唸らせるハード SF まで、必ずあなたを満足させる一冊があるはずです。あなたも SF を読んでみませんか。

補注：文中では書名またはシリーズ名を『　』で囲み、現在でも新刊で入手できるものについては、続く（　）内に出版元を略記しています。

図書館所蔵情報

上橋菜穂子『精霊の守り人』（偕成社、2006年）【913.6/U】

上橋菜穂子『精霊の守り人』（新潮社、2007年）【S08/194】

筒井康隆『時をかける少女（新装版）』（角川書店、2006年）【S08/178】

アレグサンダー・ケイ『残された人びと』（若宮藍『未来少年コナン（1～4）』竹書房、2005年）【S08/197～200】

ジュール・ベルヌ『海底二万マイル』（南本史訳、ポプラ社、2005年）【S08/203】

Ｈ・Ｇ・ウェルズ『宇宙戦争』（小田麻紀訳、角川書店、2005年）【S08/202】

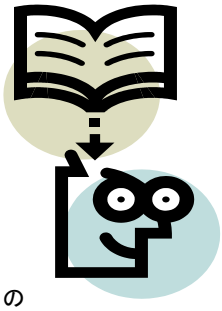
があります。

本の中には何がある？

経済学部　経済学科准教授　三川　敦

映画「シザーハンズ」や「パイレーツ・オブ・カリビアン」の主役を務めたジョニー・デップが主役の「ナインスゲート」という映画をご存知だろうか。監督はロマン・ポランスキー（「戦場のピアニスト」でアカデミー監督賞を受賞）で、8年前の20世紀最後の年に公開された映画である。残念ながら私は劇場ではなく、DVDで数年前に見た。先日、その中古が売りに出ていたので購入し、見直してみた。この映画は、本のトレジャーハンターまたは本の探偵のようなことを生業としている主人公コルソ（ジョニー・デップ）が、世界に3冊しか現存しないと云われる祈祷書『影の王国への九つの扉』の調査を依頼され、殺人事件などに巻き込まれながら本の秘密を解いていくというものだ。当然、本が重要な役割を果たしている。少し古くなるが20年以上前に、「ネバーエンディング・ストーリー」という映画がヒットした。これは、本好きの男の子が、偶然手にした本を開くことにより、本の中の物語へ入っていくというストーリーで、これもまた本が重要な位置をしめている。

この2つの例からも分かるように、紙とインクから出来ている単なる物質であるはずの本が、書いてある内容以上のものを含んでいると多くの人が感じているということだ。それは何だろうか。ラジオ劇の生放送でおこる色々なハプニングを扱った「ラヂオの時間」という映画の三谷幸喜監督が、「どうしてラジオ劇が題材なのですか」という質問に、「ラジオの場合は『・・・です』と言えば済む。テレビ・映画の場合は実際にそれをセットなどで作る必要があるから。」というようなことを話されていたと思う。本もこれと同じ面がある。ただ気をつけなければならないのは、「・・・が爆発しました。」という文章の場合、人によってイメージをする爆発の規模が違うということだ。よって、書類や手紙等の文章を読んだときに、他の人との間に誤解が生まれて来る原因の1つとなる。しかし、これが物語ならば読む人次第でいくらでもイメージが広げられるので、面白い本であれば2倍にも3倍にも面白さが拡大することになる。これが本のすばらしさの1つではないだろうか。まるでスポンジケーキのたねのようなもので、始めは小さくても加熱をするとどんどん膨らんでくるように、本を開き、読んでいく内に自分の中で何かがどんどんどんどん広がっていくような気持ちになる。私は、図書館や本屋さんへ行き、並んだ本を見ただけで、中に何が隠れているのだろうとワクワクしてくる。実際に手にとり、ページをめくると美味しい料理の香りをかぐような気持ちになる。とは言っても、いつも



美味しい料理ばかりではないが。何れにしろ、色々な本に興味を持つのは良いことだとは思うが、衝動買いをすることも多く、結局読まない本も山のようにある。良く「積ん読だね」と言われたものである。大学生の頃まではそれをとても気に病んでいたが、あるとき森毅京都大学名誉教授（当時はまだ教養部教授）が「本はすべて読まんでもええ、10 冊買ったら全部読むのは 3 冊ぐらいで良い。」（残念ながら正確な冊数は忘れてしまったが）のようなことを話されているのをお聞きし、「そうなんだ」と妙に納得し、それ以来買う本が増えてしまった。特に最近は大型古書店が増え、値段も手頃なので買う冊数に拍車がかかっている。新書版の本が多いのがせめてもの救いではあるが、私の研究室はまるで棚卸しの古本屋さん状態になっている。若者の活字離れが問題にされるようになって久しいが、それによる大きな問題の 1 つは想像力が養われないことではないだろうか。上にも書いたように、文章を読むと想像力を掻き立てられるし、逆に想像力がないと楽しく読めない。是非学生諸君には本学の図書館に出向き、本の中に隠れているものを発見して貰いたい。また、知らない学生が多いようだが、この図書館に無い本は、図書館に本の購入依頼（希望）を出すことが出来るし、他の大学から借りたりする事もできる。では、次の有名な言葉で締めくくろう。「本を開けた、その瞬間がネバーエンディング・ストーリー（果てしない物語）の始まりだ。」

教員著作寄贈図書　（2007 年度）

【生命工学部】

○藤田泰太郎教授

Global Regulatory Networks in Bacillus Subtilis

（Transworld Research Network、2007 年、『枯草菌のグローバルな遺伝子発現制御ネットワーク』）【465.8/F】

○大川秀郎教授

Pesticide Chemistry: Crop Protection, Public Heath, Environmental Safety

（Weinheim WILEY-VCH、2007 年、『農薬化学 -作物保護、公衆衛生、環境安全-』）【615.87/O】

ご恵贈いただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

図書館では、本学教員著作図書を収集しております。図書を出版された際は是非ご協力ください。よろしくお願いいたします。

図書館体験

本年も職場体験学習「チャレンジ・ウィークふくやま」が行われ、福山大学には大成館中学校から4人の中学生が訪れました。初日の8月18日に附属図書館での職場体験をしてもらいました。

午前中はそれぞれの部署で作業を体験してもらいました

午後からは蔵書点検を体験してもらいました

職場体験が終わって（皆さんお疲れ様でした）

まず CiNii からはじめよう
電子ジャーナルと文献・情報探索

工学部機械システム工学科教授　井上達雄

1．CiNii（サイニィ）にアクセスしよう

先日同僚が、学術雑誌の論文のコピーをしていた。ちょっと待った、そんなのはインターネットで CiNii にアクセスすると直ぐ見られる、というと驚いた顔。最も簡単で、お金のかからない CiNii でもご存じない方はかなりおられることを知って、とりあえずこれをトライされることをお勧めしたい。

図書館の関係各位の懸命のご尽力にも関わらず、福山大学で探索できる和文（ないしは国内で出版される学術誌）の情報探索データベースをご存じない教員、学生がかなりおられるのは驚きである。自分の研究を進めていくと、当然多くの論文や資料、データなどを調査する必要がある。昔は、図書館に行って、雑誌を借りてきて、目的とする論文などを写真にとって、自分で焼き付けて読んだものだが、その後複写機の進歩でコピーは楽になった。しかし、目的とする分野でどんな論文があるか、また見付けた論文を入手する手間は、冊子をめくっていては大変である。

後述するように、まだ多くの問題はあるものの、まだご存知でない方にはとりあえず CiNii で探索することから、情報検索をスタートすることを薦めたい。CiNii とは、日本の学術論文を中心とした論文情報を収録・提供するデータベース・サービスであり、学内のパソコンでなら多くの文献が無料で閲覧、探索、複写が出来る。サイトライセンス個人 ID を取得すれば自宅など大学以外でも探索することができる。

具体的には、「附属図書館」から「CiNii」をクリックすると、下図の画面がでる。

これに、著者名、論文名を入れて探索する（筆者のようにありきたりの名前では、同姓同名の方がおられるから、「詳細探索」で条件をつけたほうが良い）。ちなみに筆者の名前を入れると、雑誌に掲載された論文のほかに、予稿集、著書、随想などに至るまで、たくさん出てくる。かなりのものが、PDF になって収められているから、直ちにダウンロードできて便利である。

２．英文論文など

前述のCiNiiは、日本の各学協会、大学などの研究機関の紀要などが収められている（先日の図書委員会で、福山大学の紀要をこれに登録するかどうかの議論があった由であるが、ほとんどの大学がすでに入っている現在、何をいまさらというのが筆者の実感である）。

しかし、英文など外国語の論文、資料などは残念ながら、無料で入手できるものはほとんどない。CiNiiには、Sience Directなどに入ることが出来るが、かなりのものは出版社経由になっているから、有料である。しかし、これも登録をしておくと、クレジットカードで支払えば、5－6ページの論文が30ドル前後で直ちに入手できる便利さはある。（後日個人研究費で清算できる。また、無料のサイトhttp://www.dab.hi-ho.ne.jp/cirrus/Sites/EJournals/Free.htmで探索して、見つかったらめっけものである。）急がないときは、図書館経由で文献複写の依頼が可能であるが、資料は直ぐに見たいのが普通だからありがたい。

３．電子ジャーナル

以上の外国語の論文などは、ほとんどが電子ジャーナルになっているから検索が出来るわけであるが、現在福山大学の図書館では、出版社などから期限を限ったトライアルユースのおためし版がいくつか入っていた。しかし、世界に学術雑誌が数多くあり、これだけ専門分化されている現在、筆者がほしいデータは見つからないため、結局使用できないのが現実である。

某巨大大学の図書館には、およそ12,000タイトルの電子ジャーナルが完備されているが、そのためには莫大な経費（10億円ともいう）を必要とする。一挙にそこまで福山大学で整備してほしいというのは無理としても、たとえば、県内の大学と連携して、ネットワークを構成するなどの方法は取れないものだろうか。

福山大学における研究環境の整備のひとつとして、図書館関係各位の一層のご尽力と、大学当局のご理解を期待したい。

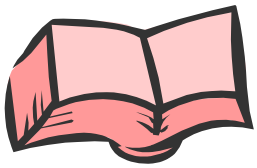
生命栄養科学科の雑誌・図書の紹介

生命工学部生命栄養科学科　岩本博行

みなさまご承知のように、生命工学部応用生物科学科は平成20年4月より新たに生命栄養科学科として再出発しました。本学科は栄養士法（昭和22年法律第245号）第5条の3第4号の規程により、文部科学省および厚生労働省から指定を受けた広島県東部で唯一の管理栄養士養成施設です。また管理栄養士養成施設が生命工学部に設置されたのは日本初となります。今回本学科が管理栄養士養成施設として指定を受けるにあたり、実地検査に必要な学術雑誌や関連図書をまとめて購入しましたので、これらについて紹介したいと思います。

まず管理栄養士養成施設の指定基準について簡単に説明します。図書・雑誌としては、「図書室を有するとともに、教育内容（基礎教育科目を除く）に関する5千冊以上の図書及び20種類以上の学術雑誌が備えられていること」とされています。当初、本学図書館の規模から考えて簡単にクリアできると考えておりましたが、「教育内容（基礎教育科目を除く）に関する」という部分をどう解釈するかで、ハードルは高くなります。管理栄養士養成施設における教育内容は厚生労働省が定めるガイドラインに詳細に定められており、専門基礎分野としては、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」、「食

べ物と健康」から成ります。一方専門分野は、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」という構成になっています。これらすべての分野にわたってバランスよく図書と雑誌が備えられていることが望ましいといえます。本学には薬学部や生命工学部が設置されていますので、「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ち」、「社会・環境と健康」分野の図書や学術雑誌はよく揃っているのに対して、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」分野は手薄でした。そこでこれらの分野の図書と学術雑誌の整備をはかる事にしました。



では雑誌の紹介から始めます。まず「社会・環境と健康」分野については、これに該当する雑誌がすでに図書館で何誌か購読されています。次の「人体の構造と機能」は、薬学部と生命工学部を抱えていますので、すでに該当する多くの専門雑誌が購読されています。気軽に読める雑誌として『からだの科学』を加えました。『食べ物と健康』は、工学部食品工学科時代に購読していて、諸事情で購読中止になったいくつかの雑誌を復活させました。例えば、”*Cereal Chemistry*”、”*Starch*”、”*Journal of Science of Food and Agriculture*”、”*Journal of Food Science*”などです。

専門分野に入って「基礎栄養学」では”*British Journal of Nutrition*”や”*Journal of Nutritional Science and Vitaminology*”などを新たに加えました。次の「応用栄養学」とは、妊娠や成長、発達、加齢などに伴う栄養状態等の変化、栄養アセスメント、ライフステージ別病態・疾病、栄養ケア計画、生活活動強度別栄養状態の評価・判定、ストレス、生体リズム、特殊環境下における身体状況などをカバーする分野です。雑誌としては”*International Journal of Sport Nutrition and Exercise Metabolism*”（スポーツ栄養）や『栄養　評価と治療』ほかの雑誌があります。「栄養教育論」は現在注目度が高い「食育」を含む分野です。雑誌としては「食育活動」や”*Journal of Nutritional Education and Behavior*”などがあります。「臨床栄養学」としては、”*Clinical Nutrition*”や「臨床栄養」などです。次に「公衆栄養学」とは、集団の健康を維持・増進し、疾病予防を図る「公衆衛生学」のうち、栄養が関わる分野を担当します（例えば生活習慣を改善し、生活習慣病発症を誘発するリスクファクターの発生を抑えるなど）。雑誌としては”*American Journal of Epidemiology*”や”*Epidemiologic Review*”など疫学系の雑誌が該当します。「給食経営管理論」は学術雑誌が少なく、『学校給食』などの雑誌があります。

どうやら図書について紹介する前に紙面が尽きてしまいました。図書については直接図書館におこしになり、ご自分の目でお確かめ下さい。身近な本がたくさん揃っています。

「本」との出会い

薬学部教授　宇野勝次

私の読書は、理系でよく見られるタイプで、多読型ではなく熟読型であるため、今迄に読んだ本はそれ程多くはないが、高校時代以降読んだ本は何かしらの記憶は残っている。学校の授業関係や仕事関係の専門書のような、ある意味義務的な読書は別として、読む本の選択は各個人のその時々の心的欲求や知的欲求によって導かれているようである。私は高校 3 年の夏、受験勉強の最中に長編小説のサマセット・モームの『人間の絆』に吸い込まれるように読みふけった思い出がある。この本の原題は“*Of Human*

Bondage”で、bondage を直訳すると「奴隷の身分、囚われの身、束縛、屈従」と言ったネガティブな意味である。しかし、この本を読めば、題名を『人間の絆』と付けた訳者がこの本の深いテーマを適切に表現していることに気付くだろう。歴史小説は別として、日本にはこのような人間の半生を描いた長編小説はほとんどないが、日本人は論理的でないため長編小説は書けないと言われている。いずれにして、私はこの本と出合うことで「愛」とか「人生」とか「ヒューマニズム」と言うものを考えるようになったと思う。

大学生になって、当時の学生の類に漏れなく私も学生運動に入り込んで行ったが、当時バイブル的作家だった高橋和己やベストセラー作家だった安部公房や大江健三郎の本はよく読んだ。特に、大江健三郎の当時出版された本はほとんど読んだと思う。大江健三郎の本の中で最も私が感動したのは、『万延元年のフットボール』である。大江健三郎の本は全般的に冒頭が観念的で状況が進展しないので読みづらいが、物語の骨子が定まって来ると、ぐいぐいと読者を引きずり込んで行く力がある。丁度、ストレスで押さえ付けられていた脳が解放されるかのように、知的欲求を満たしてくれる。大江健三郎は、「青年」、「政治」、「戦争」、「歴史」、「生命の価値」、「救済」、「家族」など多くのテーマを投げかけてくれた。一方、この頃に私は評論もよく読んだ。当時、評論家として吉本隆明と江藤淳が人気作家だったと思うが、私は文芸評論家の江藤淳の方が好きだった。江藤淳の評論書の中でも、『成熟と喪失　―“母”の崩壊―』と『崩壊からの創造』は特に私の脳を刺激した。江藤淳の鋭いナイフで切ったような評論を読むことで、「母」、「父」、「成熟」、「喪失」、「無常」、「崩壊」、「創造」、「危機」、「自己発見」など、やはり多くのことを認識することができた。

社会人になって中年なると、私小説が読めなくなった。その代わり、歴史小説を読むようになった。歴史小説の中で、最も夢中になったのは多くの人々に読まれていた吉川英治の『三国志』である。これも長編小説であるが、非常に読みやすく、まるでドラマを見ているように小説の中に入って行き、私としては短期間で読んだと思う。この本自体は史実と大分違うらしいが、何よりも小説のスケールの大きさに感動した。史実に基づいた歴史小説で面白かったのは、司馬遼太郎の『項羽と劉邦』である。しかし、諸葛亮孔明にしても項羽にしても歴史上の英雄は、最期が悲しく、儚い。また、一方でノスタルジアも感じる。歴史小説は、人生の半ばを過ぎて、階段を下り始めている自分を悟るために、あるいは慰めるために必要な本であったのかも知れない。

最近では、わずかながら評論は読んでいるが、もっぱら専門書や文献と言った、いわゆる義務的な読書しかしていない。忙しさも理由の一つに挙げられるが、高校 3 年の夏のような激しい心的欲求が無くなっていることも事実である。加齢と伴に体力だけでなく、知的欲求も減少しているのかも知れない。しかし、人生の時々に一冊の本との出会いは、自分を見つめ、新しい自分を見出すことができる大切な瞬間である。その意味で、本は貴重であり、読書の終わりは人生の「知」の終焉を意味する。

古代メソポタミアで文字が発明されたのは周知の通りであるが、図書館の歴史は文字の歴史と重なると言われており、文字を用いる人類とって図書館は必要不可欠なものであったと言える。近年、インターネットの普及により、電子資料や電子出版物が見られるようになり、図書館も紙媒体から電子媒体に様変わりし始めている。しかし、いつの時代でも図書館は「知」の集積場所であることには変わりがない。私自身、何とか知的欲求を鼓舞して、今後も図書館を利用して「知」の継続を図って行きたいと思う。

図書館所蔵情報

W.Somerset Maugham, *Of Human Bondage*（Mandarin、1990 年）【933.7/M】

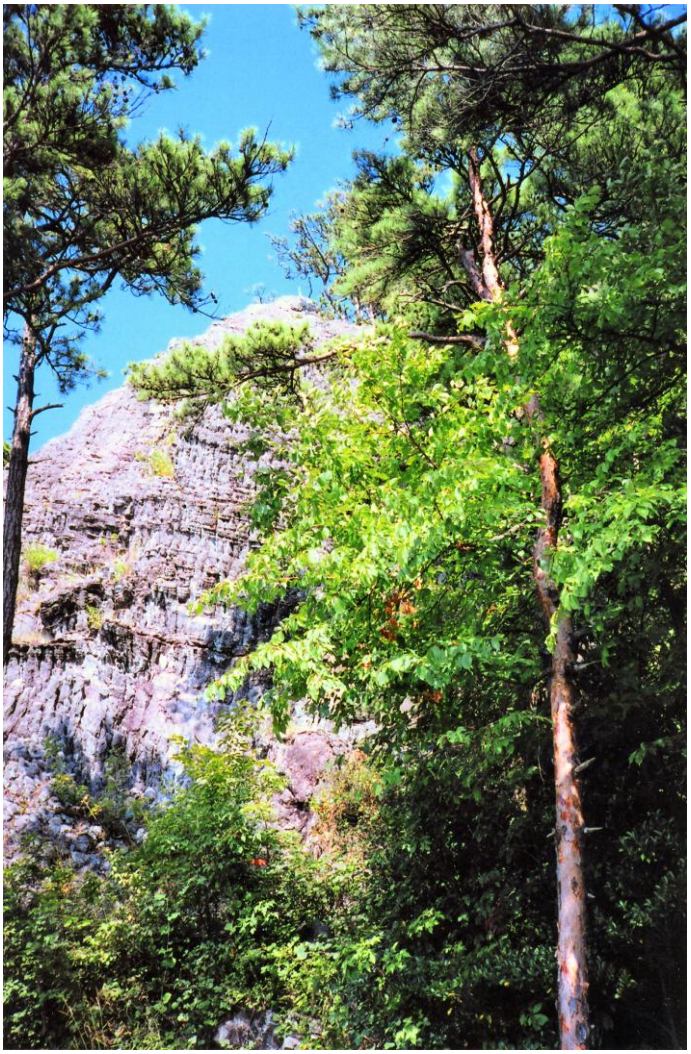
サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（中野好夫訳、新潮社、2007 年）【S08/195～196】

があります。

千体地蔵は、説明板に次のように紹介されています。「千体地蔵は、流紋岩の柱状節理が異常に発達し、その先端が長年の風化によって地蔵さまの頭のようになりそこに板状の粘質層が何枚もはさまり、あたかも帽子やよだれかけ、台座のごとき形状にみえます。全国でも例のない自然が造った芸術・奇跡の地蔵群です。」

千体地蔵の前の 2 本の松は、土地の人達が塩焼き用の薪を取りに山へ入り、薪を背にして地蔵さまを拝んで下山する様を見ていたはずです。しかも、2 本の松は、千体地蔵を守り、自然と人間が一体とならなければ、人間は生活できないことを、地蔵と一体となってわれわれに語ってくれているような気がします。

（K）



能登輪島、曽々木の千体地蔵

平成 21 年 1 月 30 日発行
編集・発行　福山大学附属図書館
〒729-0292　広島県福山市学園町 1 番地三蔵
http://libaxp.fulib.fukuyama-u.ac.jp/

印　　刷